「幸せな王子」に乾杯!!

ガンコ親父の

あるお城にマツジーロという王子がいた。傲慢な他の兄弟と違って心優しかった。王子は城下町でも貧しい人々に対する振る舞いが素晴らしく、庶民の間では抜群の人気を誇っていた。

そんな中、王子たちの国は他国からの侵略を受けた。苦戦が続く中で、すぐに白旗をあげた兄弟と違い、戦さ嫌いだったマツジーロ王子だけが国民のためにと、皮肉にも最後まで戦い抜いた。しかし奮闘虚しく名誉の戦死をとげた。そんな王子の死に、人々は涙を流し、悲しんだのだった。

時は流れ、戦争の傷跡も薄れた頃、町の広場には「マツジーロ王子」の立派な像が高い台座に立っていた。人々の寄付によるその像は金で覆われ、剣の鞘にはサファイアが飾られていた。両目はよく見えるようにと透明なダイヤモンドが嵌め込まれていたが、恐れ多い宝石だけに怪盗ルパンにだって手が出せなかった。市民は王子の像の前を通る時には必ず手を合わせた。

いっぽう、家族の群れからはぐれた一羽のツバメが、暖かい南の国に急いでいた。遅れを取り戻そうと全速力で飛んだので息が切れ始めた。街の広場で羽根休めの場所を探すと、キラキラ輝いている像の足元に休めそうなスペースがあった。ツバメはその場ですぐに眠りに落ちたが、ポタポタ落ちてくる水滴に眠りを破られた。

見上げると、ダイヤモンドの目から涙が落ちていた。ツバメは王子の像に向かって「なぜ泣いているの？」と訊ねると、「ほら、あの家の窓の中を見てごらん。お金がなく、子供を育てるために、自分の食事を我慢しているお母さんがいるだろう。着てる服はツギハギだらけだし、クリスマスなのにケーキなどは夢の夢。泣きたくなるよね。ツバメくん、このサファイアをあのお母さんに届けてくれないか？」

ツバメは言った。「王子様、悪いけど僕には時間がないんです。これ以上寒さが厳しくなると生きていけないので、もう飛び立たないと」と断ったが、王子は懸命に頼み込んだ。熱意に負けたツバメは、サファイヤを口にくわえて飛んで行った。

王子の純粋な気持ちに心を打たれたツバメは、さらに左の目玉のダイヤモンドを破産して自殺寸前の人に運んだ。そして次は右目も目が悪い人に。両目を失った王子は視覚を失ったが、ツバメに街の状況を聞き出した。「ツバメくん、私の身体をまとっている金箔を少しずつはいで、貧困で苦しんでいる人に届けておくれ」と頼んだ。何回も何回も運んでは帰ってくるツバメの体力も限界だったが、最後まで王子の願いを聞き入れた。

ツバメは最後の金箔を持って飛び立ったが、王子に内緒で酒屋に行った。この国では滅多に手に入らない『しまっちゅ伝蔵』と交換できたツバメは、成人になっていた王子にその酒を差し出した。口にすると、王子の金箔が剥がれてくすんだ身体の色はパアッと赤らんだ。疲れて息も絶え絶えのツバメはその温まった王子の足元に横たわった。ツバメは南に渡った家族のことを思ったが、少しも悔いはなかった。むしろ誇らしかった。その雪の降るクリスマスの夜、ツバメは天国に迎えられたのだった。少し酔って赤くなっていたマツジーロ王子の像の魂と一緒に。

奄美黒糖焼酎

しまっちゅ伝蔵（でんぞう）

常圧蒸留

昔ながらの手造りこだわり焼酎

喜界島の豊沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。

900㎖（25度） 1800㎖（25度） 1800㎖（25度）

25度 好評発売中

くろちゅう
喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連2966番地12
☎0997（65）0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造㈱は、この活動を応援しています。

the most beautiful villages in japan
喜界町
鹿児島県

http://www.kurochu.jp

お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。